

2025年1月7日 チベット自治区（中国）の地震

(1) 概要及び最近の地震活動 (注1)

2025年1月7日10時05分（日本時間、以下同じ）にチベット自治区（中国）の深さ10kmでMw7.1の地震（Mwは気象庁によるモーメントマグニチュード）が発生した。この地震の発震機構（気象庁によるCMT解）は東西方向に張力軸を持つ正断層型である。気象庁は、この地震に対して、同日10時27分に遠地地震に関する情報（津波の心配なし）を発表した。この地震により、少なくとも死者126人、負傷者188人などの被害が生じた（2025年1月16日現在）。

今回の地震の震央周辺は、インド・オーストラリアプレートがユーラシアプレートに衝突している地域である。1980年以降の活動をみると、今回の地震の震央付近（領域a）ではM6.0以上の地震が時々発生しており、2015年4月25日にはMw7.9の地震が、同年5月12日にはMw7.2の地震が発生し、一連の地震活動により死者8,776人などの被害が生じた。

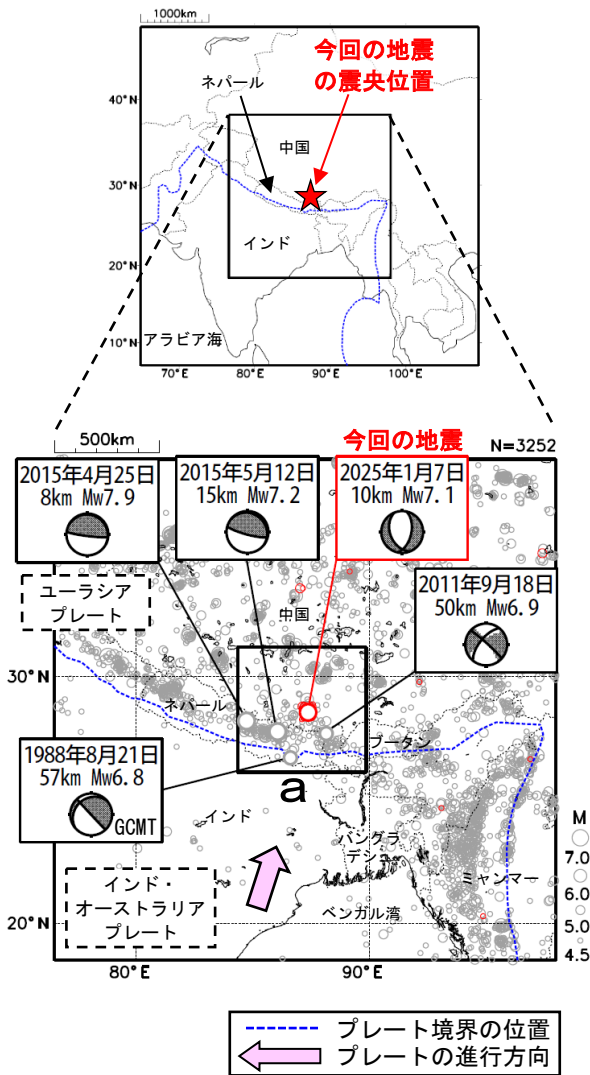


図1-1 震央分布図
(1980年1月1日～2025年1月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 4.5$)
2025年1月の地震を赤色で表示

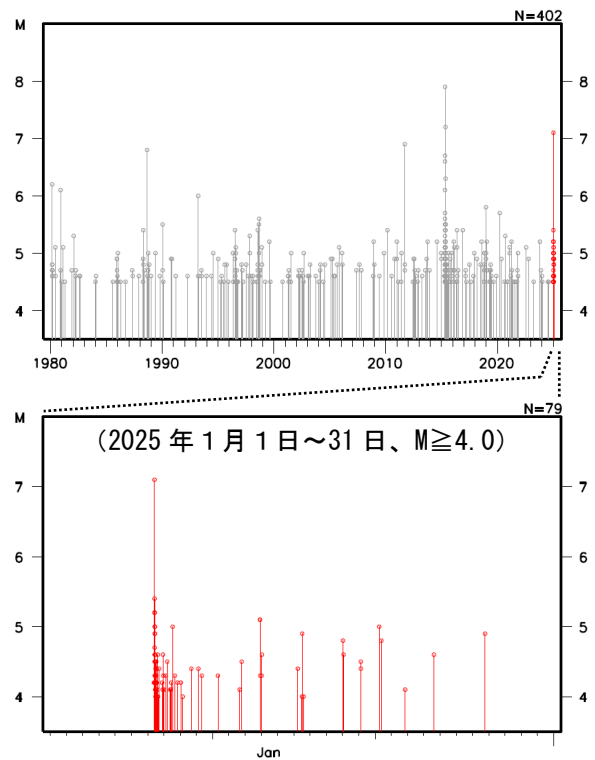


図1-2 図1-1の領域a内のM-T図

(注1) 震源要素は、米国地質調査所(USGS)による(2025年2月3日現在)。ただし、吹き出しを付けた地震の発震機構及びMwは、1988年8月21日の地震はGlobal CMT、その他の地震は気象庁による。地震の被害は、今回の地震はOCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs:国連人道問題調整事務所、2025年1月16日現在)、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird(2003)^{*1}より引用。

*1 参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.

(4) 過去に発生した主な地震 (注4)

1904年以降の活動をみると、今回の地震の周辺(領域c)では、M7クラスの地震が時々発生しており、大きな被害を伴っている。1934年1月15日にはM8.0の地震が発生し、死者10,700人などの被害が生じた。

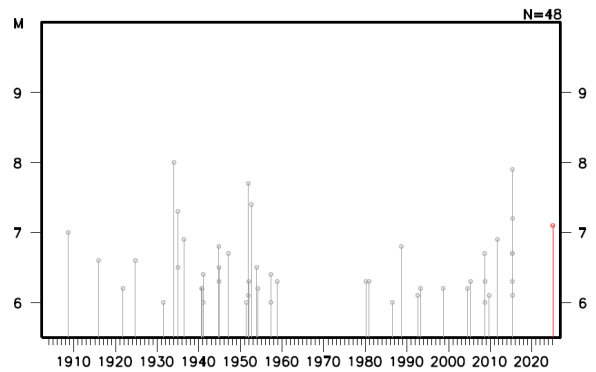
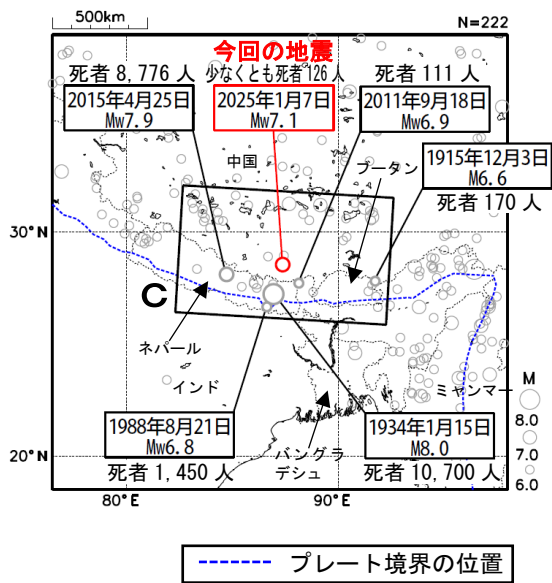


図4-2 図4-1の領域c内のM-T図

図4-1 震央分布図(1904年1月1日~2025年1月31日、深さ0~100km、M≥6.0)
2025年1月の地震を赤色で表示
死者100人以上の地震に吹き出しを付加

(注4) 震源要素は、2020年まではISC-GEM Global Instrumental Earthquake Catalogue Version 11 (1904-2020)、2021年以降は米国地質調査所(USGS)による(2025年2月3日現在)。ただし、吹き出しのある地震のMwは、1988年8月21日の地震はGlobal CMT、その他の地震は気象庁による。被害は、今回の地震はOCHA(UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs: 国連人道問題調整事務所、2025年1月16日現在)、その他の地震は宇津及び国際地震工学センターの「世界の被害地震の表」による。プレート境界の位置はBird(2003)*1より引用。

*1参考文献 Bird, P. (2003) An updated digital model of plate boundaries, *Geochemistry Geophysics Geosystems*, 4(3), 1027, doi:10.1029/2001GC000252.